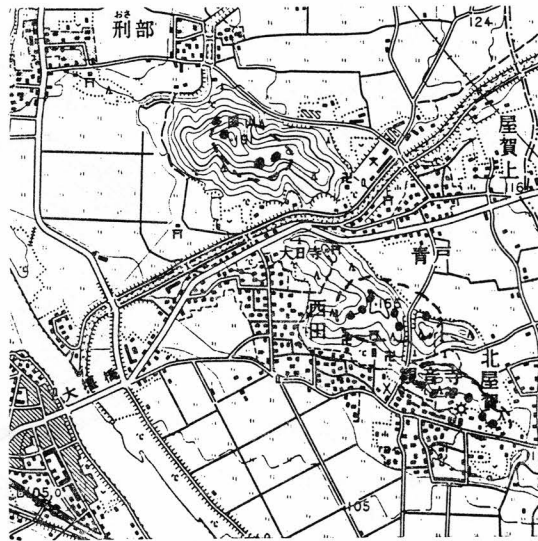


船井郡八木町青戸採集土器について

岡崎 研一

ここに紹介する資料は、船井郡八木町の富本小学校が保管していたもので、杯身や杯蓋など須恵器5点である。これらはいずれも10年程前に、富本小学校の建つ青戸の丘陵部で採集されたもので、その明確な位置等に関しては不明である。八木町では、丹波地方の横穴式石室を内部主体とする古墳から出土する須恵器の中で、古い段階のものである。

船井郡八木町青戸は、八木町と亀岡市の境界付近にあたり、大堰川と三俣川が合流する所である。ここに



第1図 青戸付近地形図

は、大堰川に沿って丘陵が細長くのびており、北より円墳3基から成る多国山古墳群、円墳6基から成る住吉神社裏山古墳群、円墳7基から成る池内古墳群が存在する。青戸は、多国山古墳群と住吉神社裏山古墳群の間に位置しているため、今回紹介する資料が両古墳群のどちらに関連するものか、不明である。

採集した須恵器は、多少の時期差は見られるが、6世紀中葉頃と思われる。この頃の須恵器が出土した古墳としては、亀岡市下矢田町医王谷に所在する医王谷3号墳や園部町教育委員会が調査を行った天神山古墳群がある。前者は、横穴式石室を内部主体とする円墳で、出土した須恵器は6世紀中葉頃と6世紀後～末期の二期に分けられている。青戸で採集した須恵器は、医王谷3号墳出土の6世紀中葉頃のものと同様である。医王谷3号墳からは、装身具や鉄製品なども出土しており、石室形態も考え合せて、首長もしくはそれに匹敵する有力者の墓とされている。天神山古墳群は、国鉄山陰線園部駅から北西の天神山東側斜面に構築されており、横穴式石室を内部主体とする円墳4基から構成されている。中でも古い時期にあたる古墳から出土した須恵器が、八木町の採集した須恵器と同様である。

これらの調査例の他に、採集位置の明確なものとして、天神山古墳群から南東600mの

丘陵東側斜面に位置する小山2号墳がある。小山2号墳から採集された須恵器は、八木町で採集した須恵器より一型式降ると思われるものから、宝珠つまみとかえりがつく段階にまで及ぶ。また、園部町埴生に所在するにわとり塚からも同時期と思われる杯身や杯蓋が採集されている。この古墳は、前述の大堰川沿いの丘陵に位置する古墳とは異なり、大堰川西方を流れる本梅川沿いに位置する。

古墳以外では、園部町曾我谷や亀岡市千代川町・大井町北金岐などの田畑部からも出土している。また、採集場所は明らか

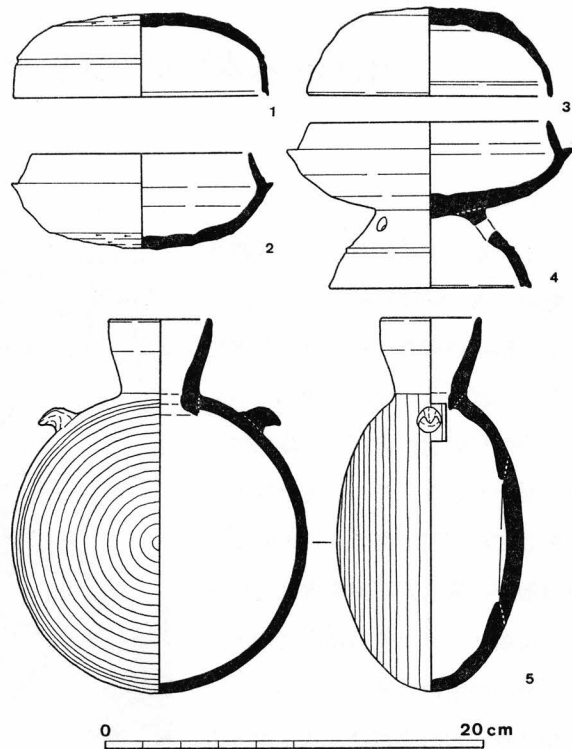
でないが、八木中学校が保管する須恵器には、今回の資料と同時期のものがある。

以上の古墳や田畑部から出土する須恵器を生産していた窯跡としては、園部町小山西町の丘陵部一帯に広がる園部古窯跡群と考えられている。園部古窯跡群については、高橋美久二氏等によって研究されており、同志社大学考古学実習室園部町遺跡分布調査研究会も^(注1)編年試案を提示している。上述の須恵器は、この編年試案によれば全て「園部Ⅱ」に相当する。これらの大半は、採集した遺物であるものの、園部町埴生のにわとり塚以外は、大堰川沿いの平坦地近くの丘陵部で採集するか、或いは発掘調査によるものである。これは、園部古窯跡群で作られた製品を水路あるいは陸路によって搬出したものと思われ、大堰川沿いの園部町・八木町・亀岡市との間に密接な文化の交流があったと思われる。今回の資料は、一例ではあるが、空白部分であった八木町を垣間見ることが出来、大堰川沿いに点在する「園部Ⅱ」期の須恵器を副葬する首長もしくはそれに匹敵する有力者の墓が、八木町青戸付近にも存在することを窺わせる資料である。

(岡崎研一＝当センター調査課調査員)

注1 高橋美久二「園部町の古窯跡群」(『京都考古』第7号 京都考古刊行会) 1974

注2 同志社大学考古学実習室『園部盆地における考古学的調査』1981



第2図 富本小学校保管遺物実測図